優秀賞

岩手県　有限会社公楽
「笑顔の輪（スマイルプロジェクト）」事業

有限会社公楽　代表取締役
山田栄作さん

被災地の人々に笑顔の輪を広げるために社員が主体となってプロジェクトを発足

震災直後に炊き出しや洗濯のボランティア

沿岸部を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災。民家はもちろん、店舗、公共施設、鉄道などのインフラが壊滅的な被害を受けたが、そのなかには仲間のパチンコやスロットのホールも含まれている。岩手県を中心に「WINS」ホールをチェーン展開するニュー公楽グループも、大震災で大きな被害を受けた。同グループは、当時、12店舗を展開していたが、大津波が襲った宮古市内に2店舗があった。幸いお客様にもスタッフにもケガ人はいなかったが、その後、休業を余儀なくされ、うち1店は結果的に閉店・解体となった。

大震災直後、同グループでは営業再開よりも、まず宮古の人々の支援を優先してボランティア活動に専念することにした。これには、同グループ発祥の地が宮古であることも影響したという。すぐに着手したのは、炊き出しだった。グループ店舗にあった食料のストックをすべて宮古に持ち込み、支援物資が避難所に行き届くようになる3月下旬まで、ほぼ毎日、炊き出しを行い、お腹をすかせ、寒さにもかかわらず冷たいものしか口にしていない人々に振る舞ったほか、市内を回り、瓦礫の撤去や泥のかき出しを行う民家の方々に温かい飲み物やカップラーメンなどを配って歩いた。

また、支援物資がある程度行き届くようになってからは、被災者の洗濯を引き受けた。市内に設けられた避難所を回り、洗濯物を預かり、会社の寮の洗濯機で洗濯し、乾かし、たたんで翌日には届けるということを、避難所が無くなるまで4カ月間、続けた。届けた洗濯物は約1300人分、14000点にものぼったという。

復興を支援するスマイルプロジェクト

その後、営業再開にこぎつけた同グループだが、まだまだ旧に復したとはいえない宮古の状況を見るにつけ、自分たちに何かできることがあるのではないかという思いから、社員が主体となって「笑顔の輪（スマイルプロジェクト）」を立ち上げた。地域の方々に少しでも笑顔と元気、明日への活力を取り戻してもらい、笑顔の輪が広がるような催しができないかと考え実施されたのが、被災後に閉店したホールの駐車場を会場とした「第1回フリーマーケット」（昨年5月28日）だった。当日はあいにくの雨にもかかわらず、約800人の市民が詰めかけ、古着を中心としたフリーマーケット、飲食ブース、子ども広場・似顔絵ブースなどに人々の笑顔がこぼれた。

被災して閉店したホールの駐車場を会場に開催したフリーマーケット

会場には多数の市民が訪れ人々の笑顔がこぼれた

あいにくの雨にもかかわらず、約800人の市民が詰めかけた

第1回フリーマーケットの報告ポスター

また、夏には地元の公園を会場に、第2回目となるスマイルプロジェクト「大夏祭りフリーマーケット」（同7月31日）を開催。これにも約1200人の地元住民が詰めかけ、フリーマーケット、飲食ブース、催しもの、イベントブースなどを思い思いに楽しんだ。さらに、秋には地元施設を会場に「がんばろうパーク　ふれあい秋祭り」（同11月19日）を開催。詰めかけた約700人の市民が、フリーマーケット、縁日コーナー、復興応援ライブ、大抽選会などで大いに盛り上がった。この3回のイベントで集まった約130万円の売り上げは、すべて笑顔の輪基金として宮古市に寄付された。こうした活動は、地元のテレビやラジオで取材・放送され、地域の人々に注目された。

ニュー公楽グループの企業理念のなかには、地域社会でがんばっている人、チャレンジするすべての人を応援し、笑顔あふれる地域社会を創造することが掲げられている。また、絆を深めることを実践するというものもある。そうした理念を再確認するという意味でも、大震災後のボランティア活動やスマイルプロジェクトに積極的に取り組んだことは、企業としての財産になったに違いない。事実、直接の被害を受けなかった内陸部に勤務する社員がボランティア活動に参加することによって、相互扶助の意識が高まったという。

顕彰事業